

千歳市地域公共交通活性化協議会

平成26年3月7日設置



概要

千歳市は支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖を源とする千歳川の清冽な流れと自然が育む豊かな大地に恵まれ、面積は594.50km²で、人口は98,041人(R2.12.1時点)と順調に伸びている。

路線バスについて、利用者は自家用車の普及等により、昭和40年代をピークに減少傾向にある。また、まちづくりに関する各種市民アンケートでは、路線バスに対する満足度は低い結果となっている。

このため、路線バスの利便性を向上させ交通ネットワークを充実させることは、まちづくりにとって重要な課題の一つであることから、「千歳市交通戦略プラン」として、平成27年度に地域公共交通網形成計画、平成28年度に地域公共交通再編実施計画を策定し、全市的なバス路線の再編を実施するなど、利用者の利便性向上やバス事業者の収支改善に取り組んでいる。

〇地域公共交通の現況

- ・JR千歳線(千歳駅、南千歳駅、新千歳空港駅、長都駅)
- ・路線バス(北海道中央バス、千歳相互観光バス、道南バス、あつまバス 16路線(内、地域間幹線系統2路線))
- ・東千歳定期貸切バス、長都、中長都、釜加地区デマンドバス(各1路線)

〇地域公共交通の課題

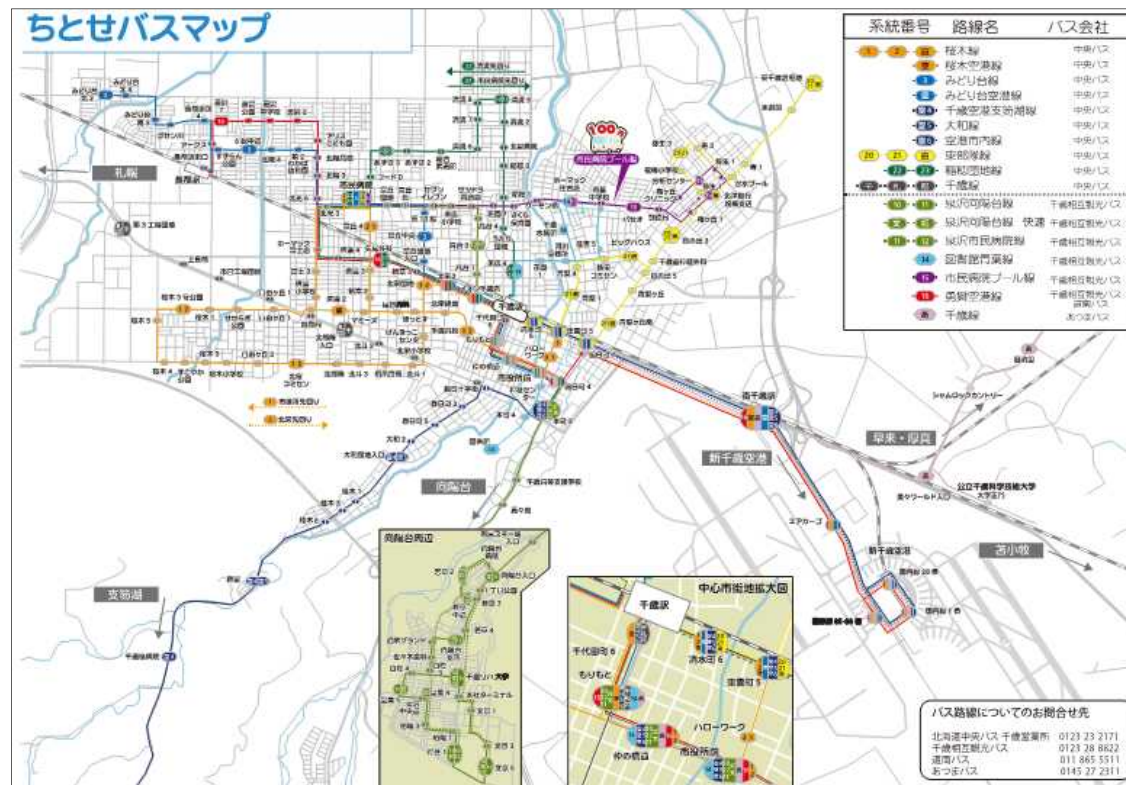
- ・自家用車の普及等による公共交通利用の低迷
- ・まちづくりと連携した持続可能な地域公共交通の維持、確保
- ・赤字路線の増加や乗務員不足

〇調査の主な内容

- ・既存計画である「再編実施計画」の内容確認及び評価・検証
- ・「利便増進実施計画(案)」及び「市内バス路線再編(案)」の策定

〇地域公共交通活性化協議会開催状況

- 令和2年7月15日 第1回協議会(書面)を開催
 - ・主な協議事項: 令和3年度千歳市地域内フィーダー系統確保維持計画(案)など
- 令和2年11月26日 第2回協議会を開催
 - ・主な協議事項: 交通戦略プランの見直し概要と今後のスケジュールなど
- 令和3年1月15日 第3回協議会(書面)を開催
 - ・主な協議事項: 地域公共交通調査等事業の事業評価(案)についてなど
- 令和3年2月25日 第4回協議会を開催(予定)
 - ・主な協議事項: 公共交通計画及び利便増進実施計画の素案についてなど



地域公共交通計画

千歳市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

◇既存計画の確認と併せ、基礎的データの整理、現況調査などにより、地域の公共交通の状況を整理した。

◇OD調査(夏)の結果

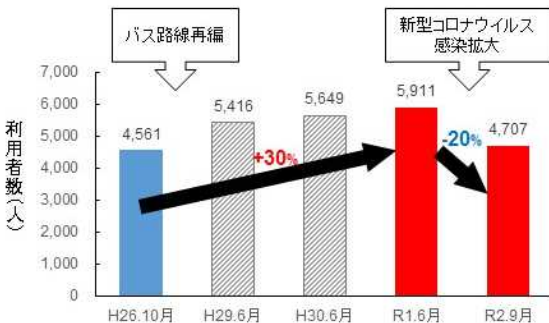
- ①一日当たりの利用者数が昨年同時期と比べて約20%減少(特に市街地と新千歳空港を結ぶバス路線の減少が大きい)。
- ②新千歳空港での乗降者人数は41%減少し、再編実施前とほぼ同じ水準まで低下。
- ③「みどり台線」や「東部隊線」は、利用者数に対し、便数が他の路線よりも多い傾向にある。

①バス乗降調査結果

バス会社	路線名	H26.10月
中央バス	稲穂団地線	414
	桜木空港線	30
	長都空港線	99
	桜木長都線	538
	支笏湖線	195
	大和線	582
	空港市内線	243
相互バス	東千歳線	495
	泉沢向陽台線	495
	泉沢市民病院線	973
市	青葉線	171
	ピーバス	326
合計		4,561

バス路線再編

バス会社	路線名	H30.6月	R1.6月	R2.9月
中央バス	稲穂団地線	478	440	409
	みどり台空港線	16	83	53
	桜木空港線	120	121	82
	桜木線	459	460	376
	みどり台線	258	247	208
	千歳空港支笏湖線	218	236	153
	大和線	814	851	526
	空港市内線	249	328	167
	東部隊線	566	529	462
	泉沢向陽台線	480	482	316
相互バス	泉沢市民病院線	1291	1369	1,276
	図書館青葉線	257	225	194
	市民病院プール線	156	152	132
	勇舞空港線	287	388	353
合計		5,649	5,911	4,707



新型コロナウイルス拡大前のR1.6月と比較した場合、黄色で示した箇所が20%以上利用者が減少した路線である。

R1.6/H26.10 : 30%増 ↑
 対R1.6月比 : 20%減 ↓
 対再編前比 : 3%増 →

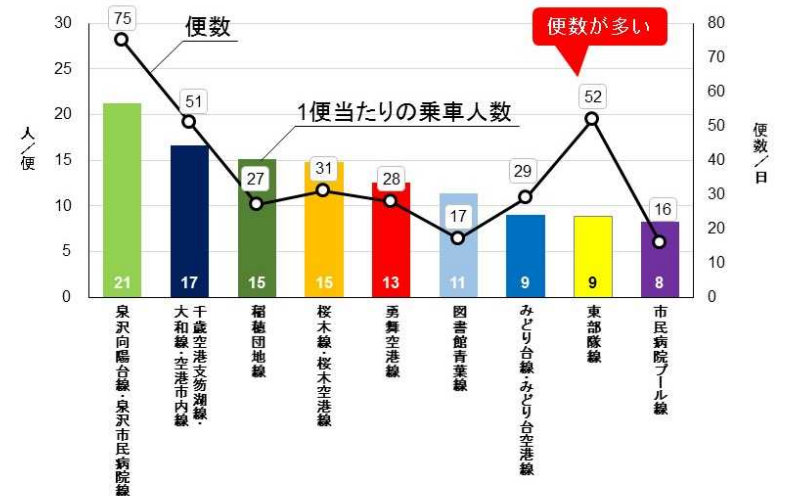
②新千歳空港 乗降人数比較

- 新千歳空港の利用者は再編前後で14%乗降客数が増加した後も利用客数が増加し、**H29.6月～R1.6月で34%増加**
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により**昨年度比で41%減少**し、再編実施前の水準とほぼ同じになった



③路線別便数と1便当たりの乗車人数

- 1便当たりの乗車人数が多い路線は便数が多い傾向
- みどり台線や東部隊線は、利用者数に対し、便数が他の路線よりも多い傾向



千歳市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

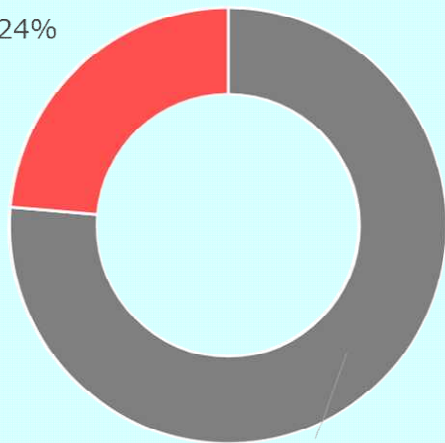
◇市民アンケート調査の結果

項目	概要
調査対象	無作為抽出した千歳市に在住の18歳以上
調査範囲	千歳市内(次ページに地域分類を記載)
配布枚数	4,000部
配布方法	郵送配布、郵送回収
回収想定	1,200部(回収率30.0%)
回収状況	1,492部(回収率37.3%)

①路線バスの利用状況

通常期・積雪期のどちらかで
路線バスを利用している方

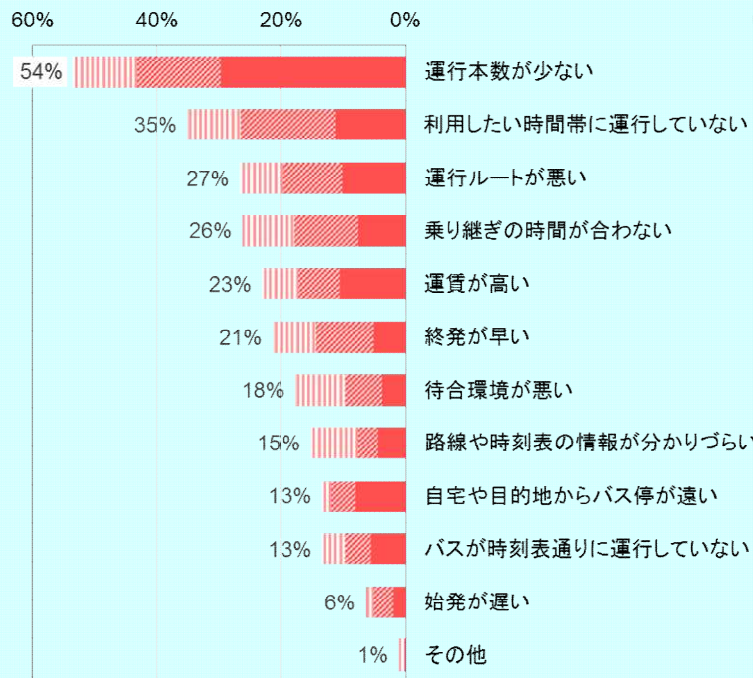
24%



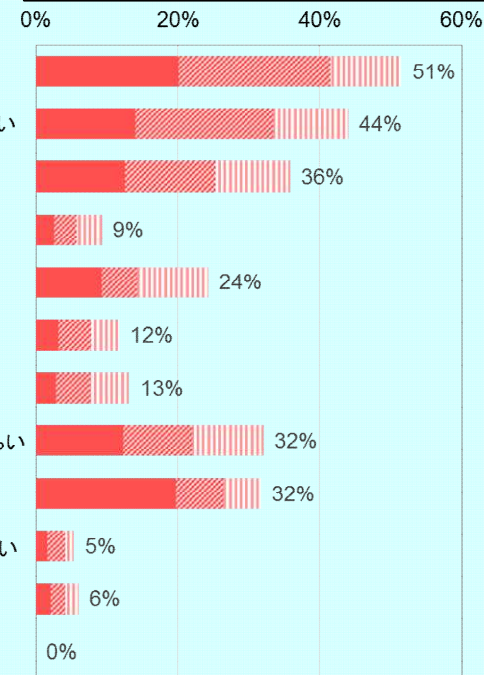
路線バスを利用していない方

76%

②利用者が求める改善事項



③利用していない方が改善されれば利用したいと思う事項



《自由記述により複数件寄せられた市民意見》

- ・利用者が少ない時間帯には、小型バスでの運行を検討してはどうか。
- ・ビーバス(H28.10月まで運行していた市営の循環バス)を復活してほしい。
- ・千歳相互観光バスにキャッシュレス決済を導入してほしい。
- ・桜木・自由ヶ丘地区と長都駅とを結ぶバス路線を復活してほしい(H28.10月に路線廃止)。
- ・シルバーおでかけパスの利用時間帯(日中時間帯のみ利用可能)を拡大してほしい。
- ・バスの運行本数を増やしてほしい。
- ・バス運賃が高いので、もっと安くしてほしい。
- ・路線が複雑で分かりづらい。
- ・不便なく利用しており満足している。 など

千歳市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画の計画策定に向けた方針

「千歳市地域公共交通計画」における”基本方針“

OD調査や市民アンケート調査等の結果から明らかとなった課題の解決に向け、千歳市地域公共交通計画で取組を検討すべき項目を基本方針として次のとおり整理した。

- 基本方針① 公共交通の利便性・安全性向上による利用者の増加が必要
- 基本方針② 利用者需要に合わせた効率的・効果的な運行体系が必要
- 基本方針③ 多様な人・目的で利用しやすい公共交通サービスが必要
- 基本方針④ 公共交通事業の存続に向けた担い手の確保が必要
- 基本方針⑤ 公共交通利用促進のための市民意識の醸成が必要
- 基本方針⑥ 既存公共交通以外の交通資源を活用した交通ネットワーク構築が必要

「千歳市地域公共交通利便増進実施計画」の策定について

基本方針①②に基づく取組として、利便性・採算性・公共性のバランスが取れた、バス路線・ダイヤの見直しを実施する。

《主な見直しの方針》

- ①桜木・自由ヶ丘地区と長都駅方面を結ぶ路線の検討
- ②市民病院プール線の実証試験の終了に伴う運賃の見直しの検討
- ③利用者数に応じた適切な便数設定の検討(東部隊線など)
- ④分かりやすい路線名への名称変更の検討

今後は、この見直し方針に基づき、バス事業者をはじめ、地域住民等との意見交換を行いながら、本市のまちの特性にあった、持続可能な交通ネットワークの構築を目指す「千歳市地域公共交通利便増進実施計画」を策定する。



●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施されている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・今回実施された調査事業は、計画どおり適切に実施されているものと考えられる。
- ・同時に更新を進めている利便増進実施計画とともに地域公共交通計画も確実に作成いただきたい。
- ・なお、その際には、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。